岩見沢市立志文小学校

教員数：29名　全校児童数：191名　実施学年：全学年

端末持ち帰りモデル

デバイス　：iPad
ＯＳ　：iPadOS
学習ｅポータル：まなびポケット
アプリ　：ロイロノート、Qubena

■　取組の方法

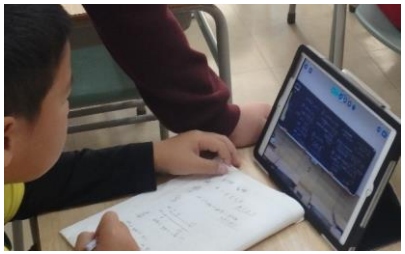
1　学習における端末の有効活用について

①　AIドリル「 Qubena 」の活用

・児童が学習状況に応じて問題に取り組むことができる家庭学習の補助教材として活用
・児童が長期休業期間中に進捗状況を確認しながら学習を行うワークブックとして活用

②　学力定着と自己調整のための学習の振り返りやまとめとしての活用

・児童が授業の振り返りに家庭で取り組み、「ロイロノート」上で学校・児童間で共有
・「ロイロノート」に保存した授業の板書や友達の考えを参考に、児童が考えを整理したり理解を深めたりするために活用



【録画機能を用いて記録する様子】

③　調べ学習のツールとしての活用

・児童が授業で分からなかったことや、もっと知りたいと思った情報を家庭で調べるツールとして活用

④　学習記録としての活用

・児童が録画機能を用いて、音楽の演奏や体育の表現等の学習成果を記録するツールとして活用

2　学校生活における端末の有効活用について

①　自己の健康管理ツールとしての活用

・児童が自身の健康観察を毎日記録し、自らの健康について関心をもつとともに、教職員が児童の心身の健康状態を把握する機能として活用

②　児童理解・相談機能としての活用

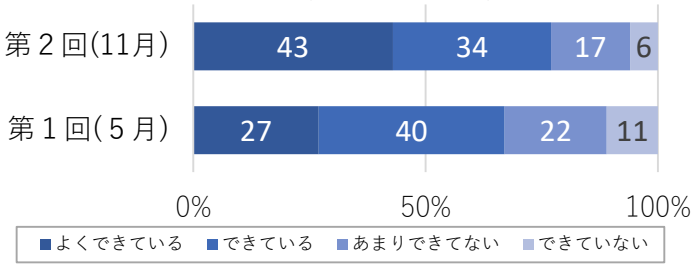
・心の健康観察や「おなやみポスト」等、児童が不安や悩みについて相談できるツールとして活用

■　児童の変容

授業だけではなく家庭学習において、端末を利活用する児童の姿が見られた。「学習内容についてわかったことやよくわからなかったことを家で振り返ったり、次の学習に繋げたりすることができている」と回答をした児童の割合が、５月と比較して11月は10％上昇した。

家庭で取り組んだ授業の振り返りやまとめについて児童間で共有することにより、新たな気づきや理解したことを家庭学習ノートに整理したり、授業での課題設定につなげたりすることができた。

「学習内容についてわかったことやよくわからなかったことを家で振り返ったり、次の学習に繋げたりすることができていますか」（児童アンケート）



岩見沢市立岩見沢小学校

教員数：26名　全校児童数：237名　実施学年：第5・6学年

端末持ち帰りモデル

デバイス　：iPad
ＯＳ　：iPadOS
学習ｅポータル：まなびポケット
アプリ　：スマイルネクスト

■　取組の方法

①　AIドリル「スマイルネクスト」の活用

・児童が学習状況に応じて問題に取り組むことができる家庭学習の補助教材として活用
・児童が長期休業期間中に進捗状況を確認しながら学習を行うワークブックとして活用

②　調べ学習のツールとしての活用

・児童が授業で分からなかったことや、もっと知りたいと思った情報を家庭で調べるツールとして活用

③　学習記録としての活用

・児童が録画機能を用いて音楽の演奏や体育の表現等の学習成果を記録するツールとして活用
・各授業において児童が思考の変化や自身の変容の確認する振り返りを行うツールとして活用

④　児童会活動での活用

・選挙の投票、議案書作成や、アンケートなど、各委員会の取組で活用

⑤　児童理解・相談機能としての活用

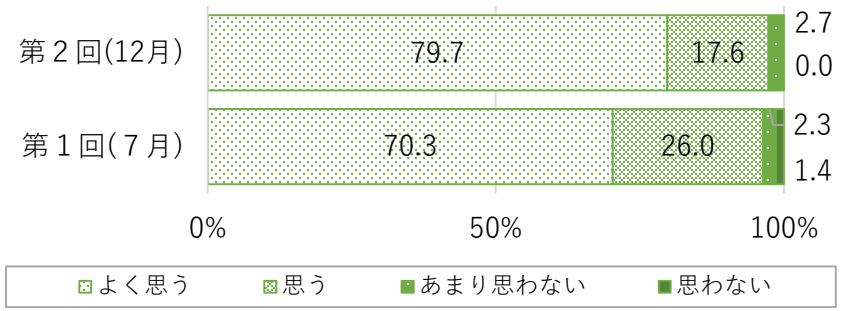
・「おなやみポスト」など、児童が不安や悩みについて相談できるツールとして活用

■　児童の変容

「家でiPadやコンピュータを使って勉強するのは役に立つと思いますか」の質問項目に「よく思う」と回答した児童の割合が７月の70.3％から12月の79.7％に増加した。

端末の活用の仕方にも慣れ、必要に応じて学習に利用できるようになるとともに、「スマイルネクスト」で自分の学習状況について、客観的に見直しながら学習できるようになった。

「家でiPadやコンピュータを使って勉強するのは役に立つと思いますか」



石狩市立石狩八幡小学校

教員数：14名　全校児童数：92名　実施学年：全学年

端末持ち帰りモデル

デバイス	：WindowsPC
OS	：WindowsOS
学習eポータル	：まなびポケット
アプリ	：Qubena、タブドリLive!

■　取組の方法

○　端末を毎日持ち帰るように体制を整備した。

○　校内研修で、「コラボノート」と「タブドリLive!」のミニ研修を行い、授業の中で活用できる実践を交流した。

○　児童に基礎的・基本的な学習内容を定着させ、家庭学習習慣の確立を図るため、退職教員等外部人材講師や支援員が学級担任等と連携し、次の取組を行った。

・月曜日は朝学習で「タブドリLive! 」を活用した取組を実施した。
・金曜日は「Qubena」を活用し、家庭学習用教材を配信した。
・長期休業中も「Qubena」を活用し、自宅で学習できるようにした。
・長期休業中に、学級担任、退職教員等外部人材講師が、「ほっかいどうチャレンジテスト」の問題を活用したオンライン学習を行った。

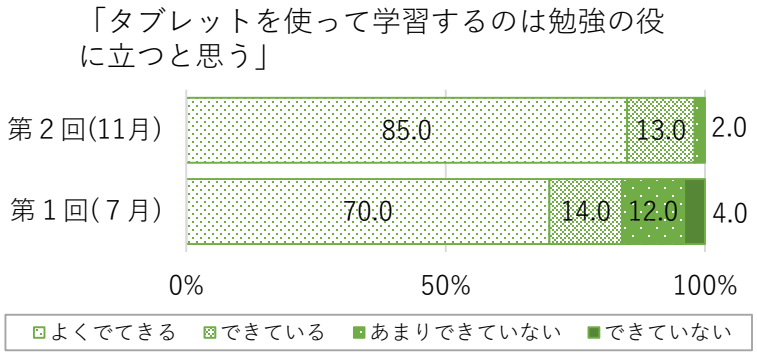
【夏休みオンライン学習（第１学年）】

【夏休みオンライン学習（第６学年）】

■　児童の変容

「タブレットを使って学習するのは、勉強の役に立つと思う」の項目で、肯定的に回答した児童の割合が、７月の84％から11月は98％となり、14％増加した。

「家で、コンピューターなどのICT機器で勉強していますか」の項目で、肯定的に回答した児童の割合が、７月の66％から11月は79％となり、13％増加した。



石狩市立緑苑台小学校

教員数：21名　全校児童数：304名　実施学年：全学年

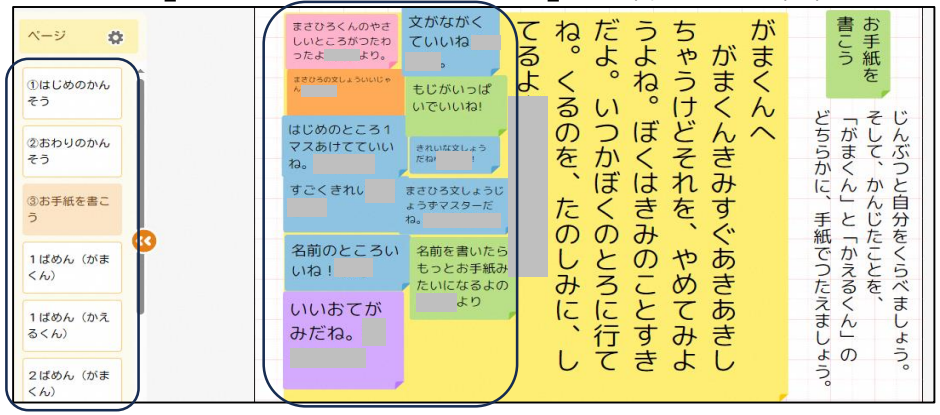
端末持ち帰りモデル

デバイス　：WindowsPC
ＯＳ　：WindowsOS
学習ｅポータル：まなびポケット
アプリ　：Teams、コラボノートEX

■　取組の方法

○　学校の授業と家庭の学習をつなげるため「Teams」や「コラボノートEX」を活用した取組

タブ



【端末活用を促すためのチャネルやタブを位置付けた画面】　【付箋を貼り合いながら学びを進めている画面】

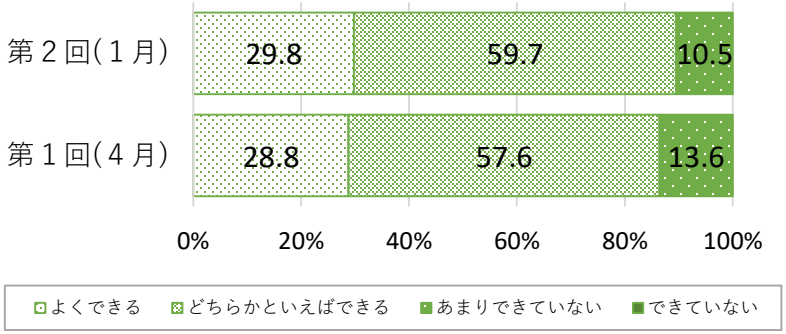
児童が自分で家庭学習に取り組みやすくするために、端末上にチャネルやタブを設定したり、授業で端末を使って学ぶ経験をさせたりした。

■　児童の変容

４月実施の全国学力・学習状況調査の児童質問調査及び１月実施の児童アンケートの「PC・タブレットなどのICT機器を活用することについて、自分の考えや意見を分かりやすく伝えることができる」の項目において、肯定的に回答した児童の割合が、86.4％から89.5％に３％増加した。

本校の課題の１つである「書くことに対する抵抗感」が端末を活用することで低減し、対話的な授業が活発になるなど、授業改善につながった。

「PC・タブレットなどのICT機器を活用することについて、自分の考えや意見を分かりやすく伝えることができる」



石狩市立生振小学校

教員数：９名　全校児童：73名　実施学年：第３～６学年

端末持ち帰りモデル

デバイス	：WindowsPC
ＯＳ	：WindowsOS
学習ｅポータル	：まなびポケット
アプリ	：Qubena、コラボノート

■　取組の方法

①「Qubena」を活用した週末の課題

端末を持ち帰る週末に「Qubena」を活用して、課題を配信した。課題を終えた児童には、家庭学習として活用するよう促した。

②「Qubena」を活用した夏・冬季休業中の課題

夏・冬季休業中は、紙によるドリルを廃止し、AIドリルを活用した。担当から、発達の段階に応じた学習課題を例示した。学級担任がAIドリル提出チェック表の結果から児童の学習状況を把握し、指導・支援に生かした。

③「コラボノート」の活用

児童が、課題を家庭で課題に取り組むことができるよう今年度から導入された協働学習アプリ「コラボノート」を活用した。

	8月30日	教科	正答率	所見（倍の見方）
A	○	算数	100	・辞書のページ数が教科書のページ数の6倍で630ページの時の教科書のページ数を求める。45%
B	○		75	
C	○		20	・５１１２÷２４の商を求める。18%
D	○		65	・２６５２÷１７の商を求める。45%
E	○		60	・２４９６÷６４の商を求める。36%
F	○		65	・２８０００÷４００を」工夫して求める。45%
G	×			
H	○		80	
I	○		85	
J	○		60	
K	○		75	
L	○		85	
M	○		90	

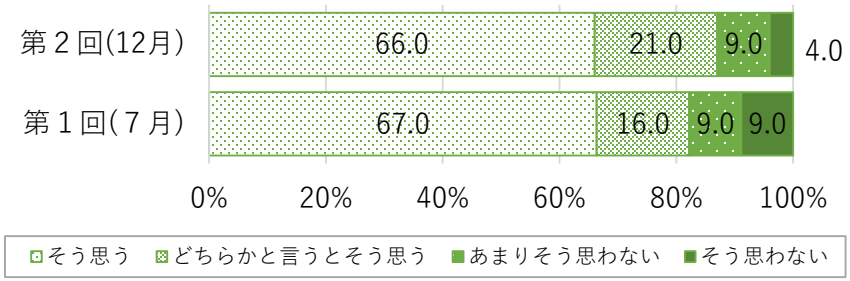
取り組み状況を学級担任にフィードバック

【ＡＩドリル提出チェック表】

■　児童の変容

「Qubena」を活用した家庭学習の取組が定着してきたことや、日常的にICTを活用した授業が増えてきたことで、12月に実施した児童アンケートにおいて、「タブレットを使って学習することは勉強の役に立つと思う」の項目において、肯定的に回答した児童の割合が、７月と比べ83.0％から87.0％に４％増加した。

「タブレットを使って学習することは勉強の役に立つと思う」



江別市立上江別小学校

教員数：31名　全校児童数：554名　実施学年：全学年

端末持ち帰りモデル

デバイス　：Chromebook
ＯＳ　：ChromeOS
学習ｅポータル：まなびポケット
アプリ　：スマイルネクスト

■　取組の方法

○　**週末に端末を持ち帰り、「スマイルネクスト」を活用した宿題を実施**

・「スマイルドリル」をもとに自由に課題を作成できる機能を活用し、必要に応じて自作で課題を作成した。

・教科や単元による出題の偏りや、児童が問題に取り組むことができる時間を考慮した課題を配信した。

○　**長期休業中に端末を持ち帰り、AIドリルを活用した宿題を実施**

・「夏休みワーク」や「冬休みワーク」といったテンプレートの中から、生徒の実態の合った課題を選択して配信した。

○　**授業や家庭学習において、AIドリルを活用した取組を推進**

・「スマイルドリル」を活用し、児童一人一人の習熟の度合いに応じた練習問題に繰り返し取り組ませた。

・総合的な学習の時間において、タイピングやプログラミング学習に取り組ませた。

【AIドリルに取り組む様子】

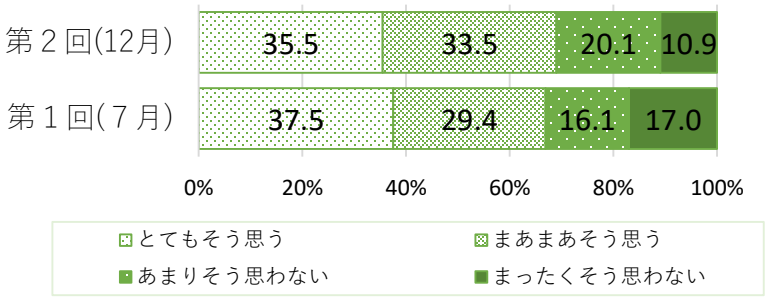
■　児童の変容

児童アンケートの「AIドリルの宿題以外の問題にも、進んで取り組んでいる」の項目において、肯定的に回答した児童の割合が、７月の66.9%から12月は69.0%となり、2.1%増加した。

授業では、端末を活用して、繰り返し練習問題に取り組む児童が増えた。

家庭学習では、自主的に端末を活用する児童が増えた。

「AIドリルの宿題以外の問題にも、進んで取り組んでいる」



千歳市立高台小学校

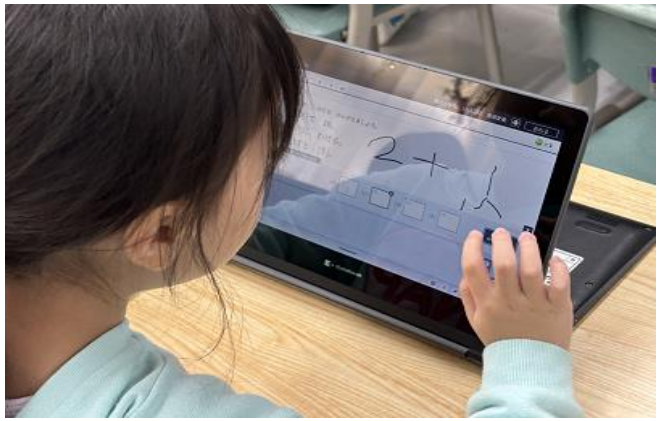
教員数：23名　全校児童数：275名　実施学年：全学年

端末持ち帰りモデル

デバイス　：Chromebook
ＯＳ　：ChromeOS
学習ｅポータル：まなびポケット
アプリ　：ミライシード、ドリルパーク、Google Workspace for Education

■　取組の方法

・学級担任が「Classroom」に課題を提示して取り組ませたり、AIドリル「ドリルパーク」を活用させたりして、家庭学習の習慣及び学習内容の定着を図った。
・退職教員等外部人材講師による補充的な放課後学習を実施し、「ドリルパーク」を活用した練習問題に取り組ませた。
・長期休業中は、端末を持ち帰らせ、学級担任から計画的に課題を配信したり「ドリルパーク」を活用させたりして、児童一人一人のペースで既習事項を復習できるようにした。



【「ドリルパーク」を活用して練習問題に取り組む様子】

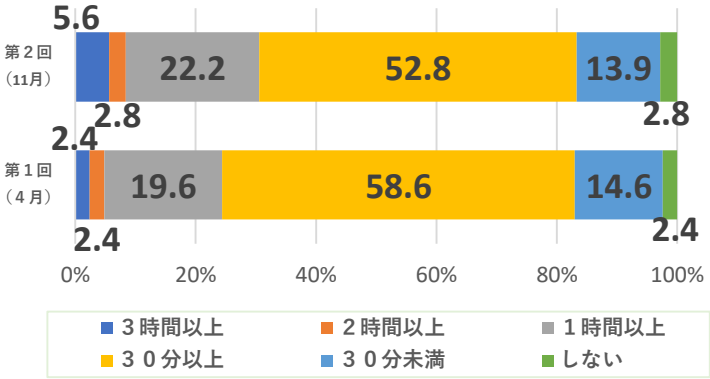
■　児童の変容

11月に実施した第６学年を対象にした児童アンケートでは、「学校の授業時間以外に普段、１日当たりどれくらいの時間、PCタブレットなどのICT機器を勉強のために使っているか」の項目において「１時間以上」と回答した児童の割合が、４月に比べて6.2％増加した。

【算数の授業の様子】

授業では、端末を活用して児童が自ら考えをまとめ、他者と交流する場面を設定するなど、自己の考えを広げ、深められる工夫を継続したことで、児童が課題意識をもって意欲的に学習に取り組むようになり、記述力の高まりが見られた。

学校の授業時間以外に、普段、１日当たりどれくらいの時間、PC・タブレットなどのICT機器を、勉強のために使っていますか。（第６学年）



千歳市立北栄小学校

教員数：17名　全校児童数：184名　実施学年：第１～３学年

端末持ち帰りモデル

デバイス　：Chromebook
ＯＳ　：ChromeOS
学習ｅポータル：まなびポケット
アプリ　：ミライシード、InterCLASS、Google Workspace for Education

■　取組の方法

・昨年度は、「１人１台端末の操作に慣れること」を目標に取組を進めたが、今年度は、使用頻度を上げるため、低学年でも実現可能な「週１回以上の持ち帰り」を目標として設定した。
・高学年においては、週の半分以上端末を持ち帰らせるなど、家庭学習の充実を図った。
・児童が練習問題を選んで学習に取り組むことができるよう、「Classroom」に複数の課題を配信した。
・授業では、クラウド上で共同編集に取り組み、学習課題を完成できるようにした。
・授業では、「ミライシード」による共同作業を通して、対話的な学びの充実を図った。
・家庭においてもクラウド上で学習できるよう「Classroom」に課題を配信した。
・長期休業中には、全学年でAIドリルを活用させた。

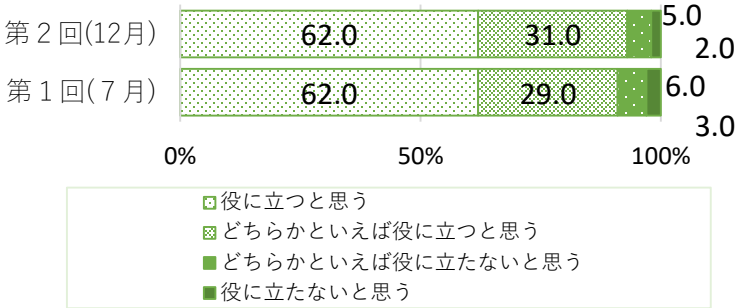
【他のグループを参考にしながら自分たちでまとめを作成する様子】

■　児童の変容

12月実施のアンケートの「タブレットなどのICT機器で勉強するのは役に立つと思いますか」の項目において、肯定的に回答した児童の割合が９割を超えた。タブレットを学習用具の一つとして、日常的に活用することが浸透している。

単元や学習活動のねらいを達成するためにタブレットやアプリを活用するという意識が教職員間で共有されている。

「タブレットなどのICT機器で勉強するのは役に立つと思いますか。」



恵庭市立恵み野小学校

教員数：22名　全校児童数：315名　実施学年：全学年

端末持ち帰りモデル

デバイス　：Chromebook
ＯＳ　：ChromeOS
学習eポータル：まなびポケット
アプリ　：スマイルネクスト
Google Workspace for Education

■　取組の方法

1　端末持ち帰りに向けた取組

(1) 日常的な端末の持ち帰りを実施
- 毎日の端末の持ち帰りを実施
- 児童の興味・関心に応じた家庭学習を実施
- 長期休業中の端末の持ち帰りを実施

(2) 学習ドリル「スマイルネクスト」を活用
- 各教科等の授業において、「Classroom」を活用した課題の提示や児童同士の交流、思考ツールとして「スマイルノート」を活用
- 「スマイルネクスト」を活用し、授業で学んだことを、家庭で振り返ったり、課題に取り組んだりすることができるように問題を配信

2　教職員のICT活用に向けた研修

(1) アプリの効果的な活用法について実践交流や検証する研修を実施
(2) 端末活用方法と児童の変容について検証、改善を協議する研修を実施

【思考ツールの活用例】

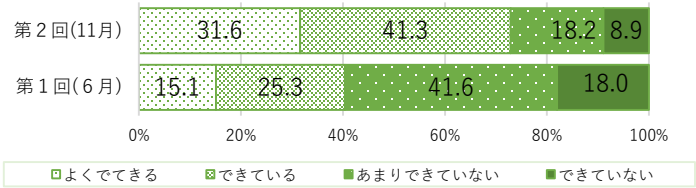
【教職員のICT活用研修】

■　児童の変容

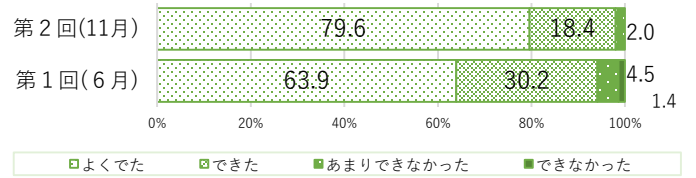
11月実施の児童アンケートでは、「習熟のためにデジタルドリルに取り組むことができた」の項目において、肯定的に回答した児童の割合が、90%を超えるとともに、「授業中にタブレットを使って友達と対話することができた」の項目において、「よくできた」と回答した児童の割合が６月に比べ、15.7%増加するなど、授業や家庭学習に主体的に取り組む児童が増加した。

「Classroom」を活用して、単元（題材）の学習内容を児童同士が共有することで、児童の学習意欲の向上につながった。

「習熟のためにデジタルドリルに取り組むことができたか」



「授業中にタブレットを使って友達と対話することができたか」



小樽市立高島小学校

教員数：15名　全校児童数：154名　実施学年：全学年

端末持ち帰りモデル

デバイス　：Chromebook
OS　：ChromeOS
学習eポータル：実証用学習eポータル、まなびポケット
アプリ　：ミライシード、
Google Workspace for Education

■　取組の方法

○　**端末の持ち帰りによる授業との関連を図った家庭学習の充実**

・児童が授業で学習した内容を振り返りながら練習問題に取り組んだり、他者参照しながら自分の考えを構築することができるよう、クラウドを活用した家庭学習に取り組ませた。

・知識及び技能の定着を目指し、ドリルパーク「ミライシード」を活用した家庭学習に取り組ませた。

○　**「Classroom」を活用した児童の学習状況の適切な把握**

・中・高学年で教科担任制を導入している各教科において、「Classroom」を活用した課題を通して、学級担任と教科担任が端末上で児童の学習状況を適切に把握することにより、児童一人一人に応じた学習支援を行った。

○　**「Meet」を活用した学びの保障と放課後学習の実施**

・感染症等による欠席や学級閉鎖時にオンライン授業を実施した。

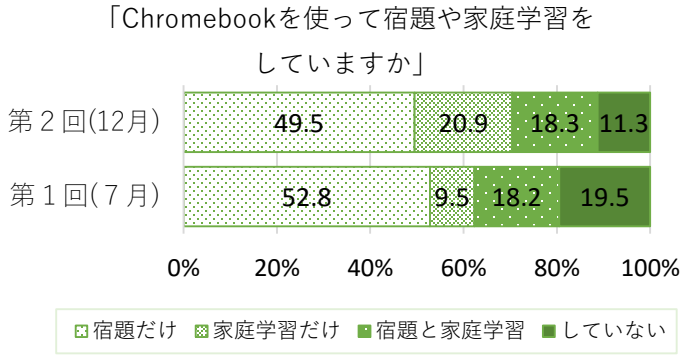
・「ミライシード」を活用し、児童が自己の課題に応じた問題を選択し取り組んだり、分からからないところを学級担任等に直接質問したりできるようにするなど、児童の学習状況に応じた放課後学習を実施した。

【家庭学習と連携させたクラウド活用の様子】

■　児童の変容

端末の持ち帰りを推進したことにより、児童アンケートにおいて「Chromebookを使って宿題や家庭学習をしていますか」という質問に対して、肯定的に回答した児童の割合が７月の62.3％から12月の70.4％に上昇した。

学力の向上に向けて、「ミライシード」等のアプリを活用したことにより、特に高学年では、授業で学習した内容を「スライド」にまとめるなど、端末を活用して主体的に学ぶ姿が見られた。



岩内町立岩内西小学校

教員数：18名　全校児童数：170名　実施学年：第５・６学年

端末持ち帰りモデル

デバイス　：WindowsPC
ＯＳ　：WindowsOS
学習ｅポータル：L-Gate、Teams
アプリ　：スマイルネクスト

■　取組の方法

①家庭学習の手引きの活用

「家庭学習の手引き（国・社・算・理）」を各家庭に毎月発行し、児童が家庭学習を行う際、どの時期にどのような学習をすればよいかを示し、それを基に児童が学習を進めることができるようにした。

②「Teams」での算数・漢字問題ファイルの共有

児童が授業で学んだことを家庭でも復習できるようにするために、「Teams」内に算数の問題や各学年の漢字問題のファイルをアップロードした。

③「スマイルネクスト」の活用

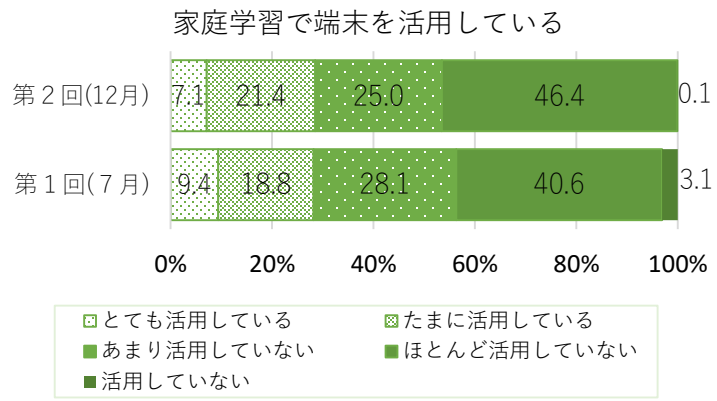
学習内容の習熟を図るために、「スマイルネクスト」を活用し、授業の復習や単元の終わりの確認問題に取り組むとともに、家庭学習でも、自身のペースに応じて学習を深めることができるようにした。

【家庭学習の手引き】

■　児童の変容

７月と12月に、第６学年の児童を対象にアンケートを行い「家庭学習で端末を活用している」という質問に対し、肯定的に回答した児童の割合が28.2％から28.5％に増加した。

家庭学習の振り返りにおいて、「『スマイルネクスト』で漢字練習が家でできるし、タイピングも速くなった」「先生からのコメントで褒められたのでやる気が出て、わり算をがんばった。」など、自己の成長を実感している記述が多くなった。



函館市立北昭和小学校

教員数：17名　全校児童数：138名　実施学年：全学年

端末持ち帰りモデル

デバイス	：Chromebook
ＯＳ	：ChromeOS
学習ｅポータル	：L-Gate
アプリ	：スマイルネクスト

■　取組の方法

○　**毎日の端末持ち帰りの実施及び端末を活用した望ましい学習習慣の定着に向けた取組**

(1)　家庭学習強化月間の設定

・端末を活用し家庭学習の状況を把握・分析し、個別の学習指導に生かす取組を実施

(2)　端末を活用した長期休業中の課題の配信

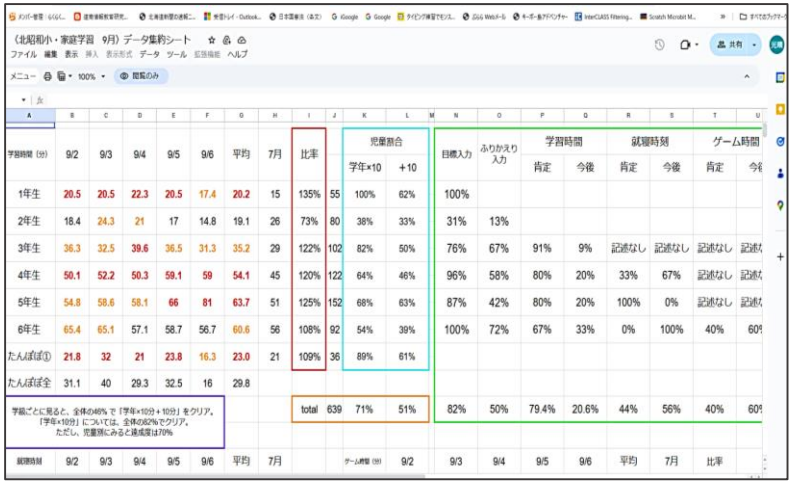
・デジタルドリルを活用した課題を配信するとともに、児童の学びを広げ、深めるために調べ学習を実施

(3)　家庭学習を支援するためのポータルサイトの運用

・全校児童が活用できるポータルサイトを作成し、家庭学習の充実に向けた資料等を掲載

(4)　「ほっかいどうチャレンジテスト」の分析による課題設定の工夫

・「ほっかいどうチャレンジテスト」の結果分析を行い、児童一人一人に応じた課題を提示する取組を実施

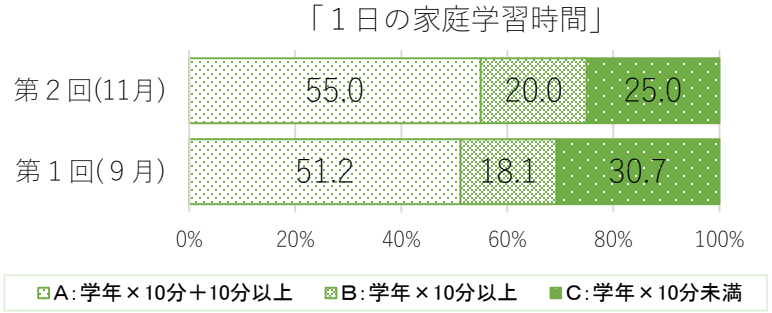


【家庭での学習時間・生活時間等を蓄積及び分析する取組】

■　児童の変容

端末の持ち帰り及び端末を活用した望ましい学習習慣の定着に向けた取組を行ったことにより、「１日の家庭学習時間」の取組目標（学年×10分＋10分以上）を達成した全校児童の割合が９月の51.2％から11月の55.0％に増加した。

長期休業中にデジタルドリルを活用した取組を実施し、教師が児童の学習状況を把握したことにより、児童一人一人の実態に応じた指導を行うことができた。



愛別町立愛別小学校

教員数：18名　全校児童数：90名　実施学年：全学年

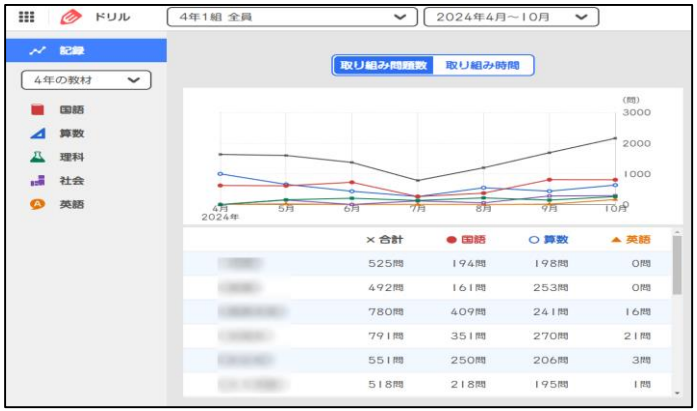
端末持ち帰りモデル

デバイス	：iPad
OS	：iPadOS
学習eポータル	：L-Gate
アプリ	：スマイルネクスト、ロイロノート、Google Workspace for Education

■　取組の方法

①　日常の家庭学習等での取組

・デジタルドリルの機能を利用し、児童の取組状況を可視化するとともに、学習状況に応じた課題を配付した。



【取組状況を可視化した画面】

②　教職員間での課題内容の交流

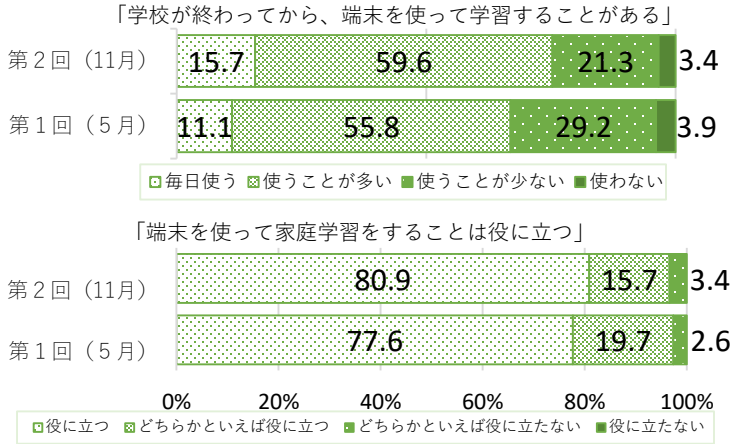
・「ロイロノート」の共有ノートを活用し、日常の家庭学習及び長期休業中の課題や教材、児童の成果物を教職員間で共有した。

【長期休業中の教材を共有している画面】

■　児童の変容

児童アンケート（11月）において、「学校が終わってから、端末を使って学習することがある」と肯定的に回答した児童の割合が75.3％、「端末を使って家庭学習をすることは役に立つ」と肯定的に回答した児童が96.6％であり、多くの児童が家庭で端末を活用した家庭学習を実施するようになった。

学習状況に応じた課題を配付したことにより、使用目的に合わせてアプリを使い分けながら端末で調べたり、共同作業をしたりする児童が増えた。



美幌町立東陽小学校

教員数：26名　全校児童数：252名　実施学年：全学年

デバイス　：Chromebook
ＯＳ　：ChromeOS
学習ｅポータル：L-Gate
アプリ　：Google Workspace for Education

端末持ち帰りモデル

■　取組の方法

1　端末の持ち帰りに向けた校内の取組

（1）ミニ研修の実施

・端末の活用及び持ち帰りについて、短時間で効果的なミニ研修を定期的に開催し、全教職員で共通理解を図った。

（2）児童の課題内容の改善に向けた交流

・各学年の取組を交流し、課題の内容について改善を図った。

2　平常時の端末持ち帰りの実施

（1）端末の持ち帰りの実施

・週末のみ端末を持ち帰ることから始め、デジタルドリルを活用して児童に課題を提出させた。

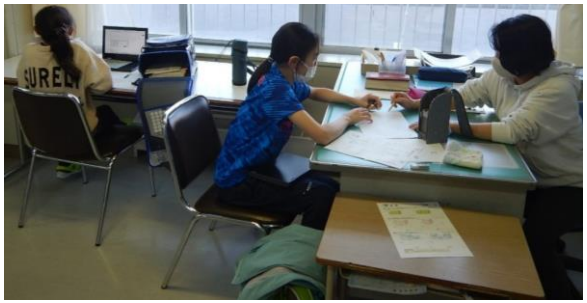
（2）端末の持ち帰り強化週間の設定

・端末の持ち帰り強化週間を設定し、平日の持ち帰りを開始した。

（3）長期休業中の端末持ち帰りの実施

・クラウドを活用し、生活表をオンラインで確認できる環境を整えるとともに、デジタルドリルを活用した課題を提出させた。

【ミニ研修の様子】



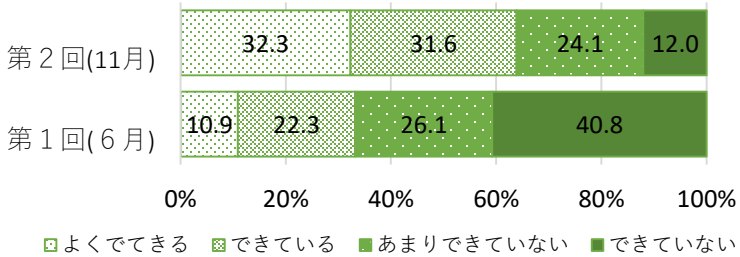
【放課後学習サポートの様子】

■　児童の変容

児童アンケート「家でコンピュータなどのICT機器で勉強していますか」の項目に対する肯定的な回答が、33.2%(６月)から63.9%(11月)に大きく増加した。

学校評価における教職員アンケート「ICTを効果的に活用した指導を行っている」の項目において肯定的に回答した児童の割合が95%となり、日常の授業での活用が端末持ち帰り時の効果的な活用につながった。

「家でコンピュータなどのICT機器で勉強していますか」



紋別市立南丘小学校

教員数：18名　全校児童数：118名　実施学年：全学年

端末持ち帰りモデル

デバイス	：Chromebook
ＯＳ	：ChromeOS
学習ｅポータル	：まなびポケット
アプリ	：まなびポケット

■　取組の方法

○　**双方向通信での学習支援「ＯＮ☆学」（オンライン学習サポート）**

1　目的

・児童の学習習慣を確立するとともに、家庭において自ら学習に取り組めるようにする。

2　方法

・希望する児童にオンラインでの放課後の学習サポートを行う。
・児童はWeb会議ツールに接続し、参加
・学校では電子黒板を活用して、教師が児童の学習の様子を把握し、ホワイトボード機能を使って質問に回答
・人数を調整するため、曜日により学年や時間を設定

3　内容

・宿題の進捗状況の見守りと取組の支援
・テストの解き直しなど、児童の困り感に対する支援

【双方向通信で学習を支援する様子】

■　児童の変容

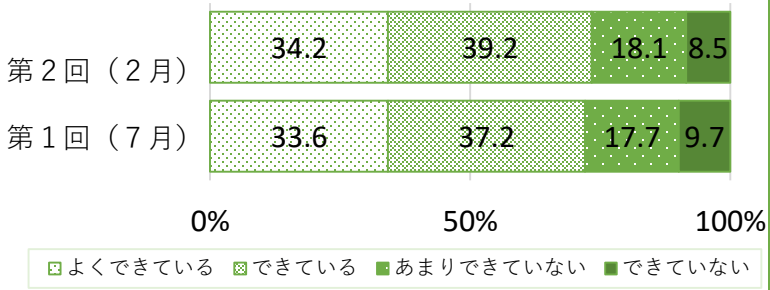
児童アンケート「家で自主学習をしていますか」の項目に、肯定的に回答した児童が７月の70.8％から２月の73.4％に2.6％増えた。

家庭で自主学習することが苦手だった児童が、オンライン学習サポートの取組には進んで参加することができた。

電子黒板に家庭での自主学習の様子が映ることにより、児童が緊張感を保ちながら集中して学習に取り組んでいた。

双方向通信で個別に支援する時間が確保できるため、児童の学習意欲が高まり、学力向上につながった。

「家で自主学習をしていますか」



帯広市立啓北小学校

教員数：25名　全校児童数：350名　実施学年：全学年

端末持ち帰りモデル

デバイス　：Chromebook
ＯＳ　：ChromeOS
学習eポータル：実証用学習eポータル
アプリ　：スマイルネクスト、ロイロノート

■　取組の方法

1　端末の持ち帰りによる学校の教育活動の充実とAIドリルアプリの活用による家庭学習の促進

①　令和５年度から全校児童の端末にAIドリルアプリを導入するとともに、第３学年以上で年度初めから端末を持ち帰り、家庭学習で活用した。低学年も後期から端末の持ち帰りを実施した。

②　毎週火曜日は、AIドリルアプリではなく、授業との関連を図った家庭学習の課題を配信した。

2　授業支援アプリを活用した学習内容の確実な定着

・授業支援アプリを活用し、意見の発信や交流、リフレクションの編集等を児童に行わせることにより、学習内容の定着を図った。

3　長期休業中の端末の持ち帰りによるICT活用の促進

・長期休業中の課題を数回に分けて配信し、課題とした日記に学級担任がコメントを入力することを通じて、児童の休業中の状況を把握し、必要に応じて取組の支援を行うなど、学習習慣の定着につなげた。

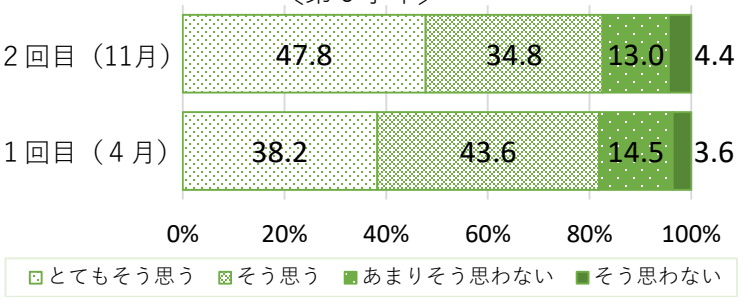
【授業支援アプリを活用した学習の様子】

■　児童の変容

第６学年の意識調査から、「タブレットを学習場面で使用することで、自分の考えや意見をわかりやすく伝えることができる」と実感している児童が４月から11月で約10％増加した。

授業支援アプリを活用した家庭学習の取組により、児童の学習内容の定着が図られているとともに、家庭学習と授業内容との関連を図った取組により、自分の意見をまとめたり、他者と意見交流をしたりする学習活動の充実が図られている。

「タブレットを学習場面で使用することで、自分の考えや意見をわかりやすく伝えることができる」〔第６学年〕



帯広市立花園小学校

教員数：31名　全校児童数：178名　実施学年：第３～６学年

端末持ち帰りモデル

デバイス　：Chromebook
ＯＳ　：ChromeOS
学習ｅポータル：実証用学習eポータル
アプリ　：スマイルネクスト

■　取組の方法

1　家庭学習での活用

①　第２学年以上は毎日、第１学年は週１回端末を持ち帰り、宿題・家庭学習に活用
②　AIドリルを家庭学習に活用
・第１学年と第２学年は週１回、第３～第６学年は日常的に実施
・夏季休業中の学習課題は、AIドリルと家庭学習ノート等を併用
・冬季休業中の学習課題は、AIドリルを主な教材として活用

2　退職教員等外部人材活用事業講師による家庭学習や授業配信におけるサポート

①　低学年児童へのChromebookの操作等に係る指導を補助
②　ステップアップルーム（別室登校対応）への授業配信を補助
③　AIドリルを活用した家庭学習の課題の配付作業を補助

【低学年へのタブレット操作の指導】

【ＡＩドリルによる課題の配付】

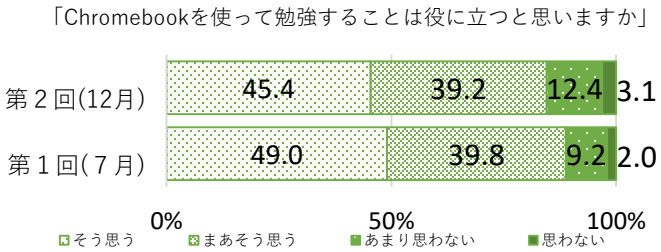
■　児童の変容

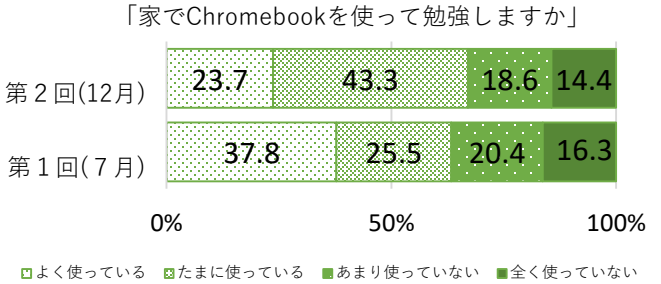
児童アンケートにおいて、「Chromebookを使って勉強することは役に立つと思いますか」の質問に対し、７月と12月ともに８割以上の児童が肯定的に回答した。

「家でChromebookを使って勉強しますか」の質問に対し肯定的に回答した児童の割合は、7月アンケートと比較して12月は6.7％増の70％となった。

AIドリルの活用により、解答を即時に確認することができたり、児童が自らの取組時間を把握できたりすることなどが家庭における学習意欲の向上につながっていると考えられる。

本校の課題である思考力を高めるため、Chromebookを活用した家庭学習の内容や取組方法を工夫する必要がある。





釧路市立美原小学校

教員数：24名　全校児童数：206名　実施学年：全学年

端末持ち帰りモデル

デバイス　：Chromebook
ＯＳ　：ChromeOS
学習ｅポータル：L-Gate
アプリ　：ロイロノート、タブドリLive！
Google Workspace for Education

■　取組の方法

①　「タブドリLive！」の実技研修（４月）

・４月から導入した学習アプリ「タブドリLive！」の効果的な活用の方法について教員向け実技研修を実施

②　朝学習「みはらのこ」開始（５月）

・端末を活用した朝学習を第２～６学年で週１回実施
・「ロイロノート」の資料箱を活用し、問題を教師から児童に配信（正答率等について分析し、次回の問題に反映）

③　日常的な端末の持ち帰りによる家庭学習の実施

・各学年の実態や学習状況に応じて、持ち帰りを実施
・全国学力・学習状況調査やCRT検査などの分析から、学級全体や児童一人一人の課題解決のための家庭学習の課題を配信

④　長期休業中での持ち帰りの実施

・「タブドリLive！」のドリル問題や端末での課題（日記、音読、リコーダー動画など）を設定
・「Classroom」を活用した児童への学習相談の実施や個別の課題を配信
・長期休業最終日に各学年におけるオンラインでの学習や教育相談を実施

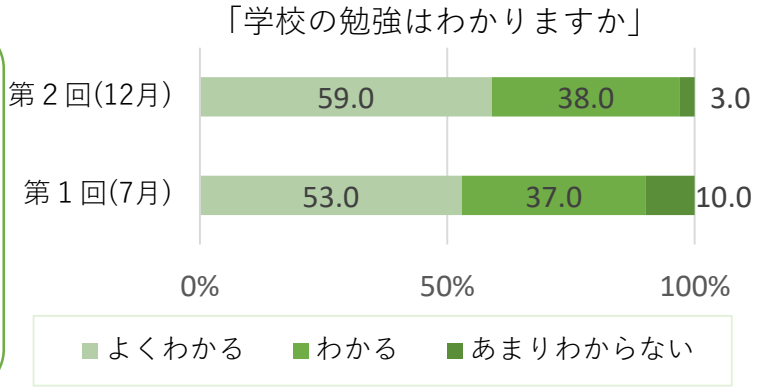
【朝学習の様子】

【正答率のグラフ掲示】

低学年	音読動画、タブドリLive！問題（国語、算数）
中・高学年	国語（書くこと領域）、調べ学習（各教科）、タブドリLive！問題等

【配信課題の例】

■　児童の変容

朝学習や端末持ち帰りの学習において正答率が低かった問題に繰り返し取り組ませたり、長期休業中の端末持ち帰りにおいて全体での学習状況の確認及び個別の学習相談を実施したりすることにより、児童の学習上の課題の解決が図られ、学校評価における児童アンケート「学校の勉強はわかりますか」の項目において肯定的に回答した児童の割合が７月の90.0％から12月の97.0％に増加した。

児童自身が自分の苦手とする分野領域を把握することで、前向きに学習に取り組む意欲が高まってきている。